

志賀原子力発電所 2号機

タービン駆動原子炉給水ポンプ(B)出口弁のベアリングの損傷について

試運転中の志賀原子力発電所 2号機は、平成 18 年 1 月 13 日午後 1 時頃、プラント停止後の状況確認中のところ、全閉すべきタービン駆動原子炉給水ポンプ(B)出口弁が中間開度となっていることを確認しました。このため、当該弁の分解点検を行ったところ、軸受部のベアリングが損傷していました。

原因は、弁動作時にベアリングに局所的に大きな力がかかったためと推定しております。

このため、ベアリングを新品に交換するとともに、弁動作時に大きな力がかからないように弁の制御方式を変更^{*1}しました。

また、類似の弁(3弁)について点検した結果、異常は認められませんでした。念のため当該弁と同様の対策を実施しました。

なお、外部への放射能による影響はありません。

* 1 全閉後に、締付力を検知して停止する方式から、全閉の位置を検知して停止する方式に変更

